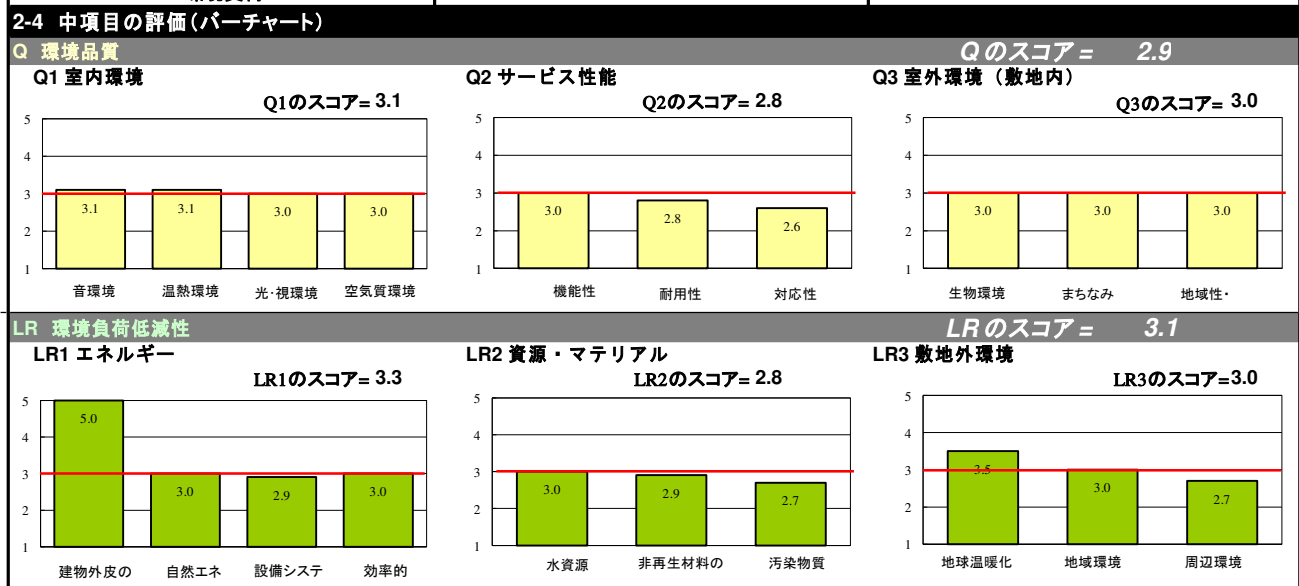
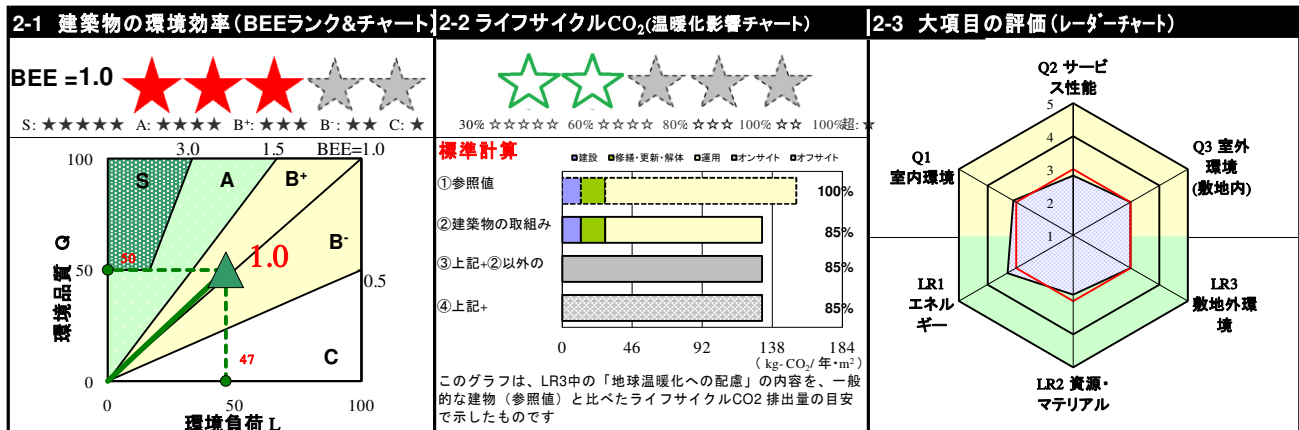


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)岸部中三丁目PJ 新築工事	階数	地上3F	
建設地	大阪府吹田市岸部中	構造	RC造	
用途地域	第二種住居地域、第二種中高層地区	平均居住人員	56 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2025年8月 予定	評価の実施日	2024年9月1日	
敷地面積	1,365 m ²	作成者	関塚 宏昌	
建築面積	806 m ²	確認日		
延床面積	2,155 m ²	確認者		



3 設計上の配慮事項		
総合 エネルギーの高効率化、躯体の耐久性の向上を基本に、標準的な取り組みが行われた計画としている。		その他 特になし
Q1 室内環境 界壁・界床の仕様を標準以上とし、F☆☆☆☆以上の内装材を使用している。	Q2 サービス性能 居室の天井高を高くすることにより、居住空間の広がりをもつ計画としている。	Q3 室外環境(敷地内) 建物を敷地境界よりできるだけ後退させ、居住空間に圧迫感を持たせない計画としている。
LR1 エネルギー 住戸内に断熱材を施工する他、住戸に庇を設け、温熱環境に配慮した計画としている。	LR2 資源・マテリアル 躯体と仕上材を容易に分離可能な工法を採用し、資源の再利用に配慮している。	LR3 敷地外環境 接道部に積極的に緑化をし周辺環境になじんだ計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		(仮称)岸部中三丁目PJ 新築工事							
建設地		大阪府吹田市岸部中							
用途／区分		病院							
【評価結果】	CASBEE 総合評価	★ ★ ★ ☆ ☆						B+	
①	CO2削減	🌸 🌸 🌸 🌸 🌸 🌸						4	
②	みどり・ヒート アイランド対策	🌸 🌸 🌸 🌸 🌸 🌸						3	
③	断熱性能	🌸 🌸 🌸 🌸 🌸 🌸						5	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル 住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	評価対象外						評価対象外	
④	エネルギー消費性能	🌸 🌸 🌸 🌸 🌸 🌸						3	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル 住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分 非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分	評価対象外						評価対象外	
⑤	自然エネルギー直接利用	★ ★ ★ ★ ★ ★						2	
	再生可能エネルギー	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—	—
	利用施設の導入状況	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—	—
エネルギー消費量の報告								報告しない	
【評価項目】									
項目	評価内容						スコア	評価	
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮						3.5	4	
② みどり・ヒートアイランド対策									
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出						3.0	3	
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3.2 敷地内温熱環境の向上						3.0		
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環境 2.2 温熱環境悪化の改善						3.0		
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制						5.0	5	
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化						2.9	3	
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用						3.0	—	
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。						報告する 報告しない	報告しない	
その他									
先進的技術の導入	技術の名称				考慮事項				
特に配慮した事項									